

ウォール街占拠運動―新しい社会運動の可能性(下)

青野恵美子 明治大学労働教育メディア研究センター

高須裕彦 一橋大学大学院社会学研究科フェアレイバー研究教育センター

目次

はじめに

一 社会運動の変革と支える人々

1 社会運動を変革する

(1) 二〇一一年十一月のズコッティ公園

(2) ウォール街占拠運動のキーパーソン

(3) すべての参加者の合意による集会

2 ウォール街占拠運動に参加する人々

(1) 学生の活動家

(2) 有色人種が存在

(3) 運動メディアを支える

(4) オープンブログに登場する人々

3 合意形成の方法

(1) ワーキング・グループ

(2) 全体集会

(3) 合意形成のための手続き

4 二〇一二年六月の占拠運動

【補論】日本人は、ビデオ『ウォール街占拠2011』をどう見たのか

(以上本誌一七七二号掲載)

(以下、本誌本号掲載)

二 ウォール街占拠運動をどうみるか

1 ウォール街占拠運動の位置と連関

(1) 歴史的位置とグローバルなリンケージ

(2) 米国の政治的・経済的動向との関係

(3) ニューヨークの社会運動・労働運動との連関

2 ウォール街占拠運動の経過

(1) 占拠運動の準備段階

(2) 占拠運動のスタート

(3) 占拠運動の展開と全米・全世界への拡大

(4) 強制排除から冬を越えて

(5) 春期攻勢? 拡散? 定着?

3 ウォール街占拠運動―私たちが学ぶべきもの

(1) 広場を占拠し続ける意味

(2) 社会運動の変革―合意形成型の運動をめざす

(3) 多様性と拡がり

(4) 徹底した非暴力主義と直接行動

(5) 労働運動、社会運動、そして政治へのインパクト
むすび

二 ウォール街占拠運動をどうみるか

前項でウォール街占拠運動の担い手たちとその運動の方法について論じた。本項ではウォール街占拠運動の位置、その経過と特徴、そして日本の私たちが学ぶべき点について論じてみたい。

1 ウォール街占拠運動の位置と連関

(1) 歴史的位置とグローバルなリンケージ

ウォール街占拠運動は、アメリカの社会運動史のなかでどう位置付けられるのか。占拠運動に関与している研究者に聞くと、Clawsonは、「九三〇年代の労働運動、六〇年代の社会運動(公民権運動からベトナム反戦運動、学生運動)につぐ、新しい運動の大高揚になるかも知れない。」という。Nossは「六〇年代の社会運動はアイデンティティを基礎とする個別課題を追求する運動であったが、今回のウォール街占拠運動は資本主義そのものに反対する運動ではないか。」と答えた。インタビュに答えてくれたインド系の活動家Suchdevは「中産階級の白人たちが怒り……貧困層との利害が一致し、この国の一%が敵で、銀行や企業アメリカが敵である、最終的には資本主義が敵であることを悟った。私はまだこの運動が反資本主義の運動であると思わないが、一般大衆の反資本主義運動に近づいている。三十一歳の私はこれまでの人

生の中で見たことはない。」という（訳は筆者）。占拠運動がスタートして九カ月の段階で、この運動の歴史的的位置を議論するのは早く断定はできないが、三〇年代、六〇年代以来の新たな社会運動の可能性を持った運動であるとみるべきであろう。

他方、ウォール街占拠運動の方法——General Assembly（全体集会）やSpokes Council（グループ代表会議）などの「コンセンサス・モデル（合意形成モデル）」に基礎をおく——に注目すると、いくつかの源流が見えてくる。遠く一九三〇年代のスペインでの革命運動（Stirin聞き取り）、直接的には、六〇年代の新左翼運動の男性中心の集権主義を批判する初期フェミニズム運動、反原発運動、平和運動や社会運動に関わってきたクエーカー教徒たちの運動などが運動論の源流となっている（グレイバー二〇〇九、一八～二〇頁；Kaufman2011: カウフマン二〇一二；Stirin聞き取り）。

近年では、メキシコ・チャパス州のサパティスタの反乱（一九九四年にNAFTAに反対して立ち上がった先住民の貧しい農民たちの反乱）や九九年のシアトルの反WTO運動以降の反グローバル化運動、IMFによる構造改革下のアルゼンチンなどの社会運動の経験がウォール街占拠運動に直接つながっている（Stirin聞き取り；Stirin2006；Stirin 2011a；Stirin 2011b, 9-11；シトリン二〇一二、四～五頁）。

そして、二〇一一年初頭に勃発したチュニジアやエジプトでの民主革命、二〇一一年五月一

五日に始まるスペイン・マドリードの広場占拠運動「15M運動」に強く触発されたという。ウォール街占拠の活動家たちは、直接、15Mの広場占拠運動の活動家たちから、占拠運動の方法を学んでいる（Kroll 2011: クロール2012²⁾）。これらの点では、ウォール街占拠運動は、明らかにグローバルなリンケージをもった社会運動である。

(2) 米国の政治的経済的動向との関係

サブプライム住宅ローン危機に端を発し、二〇〇八年九月のリーマンショックによって顕在化した金融危機は、米国の金融と経済危機、そして連邦政府や自治体の財政危機を引き起こした。以後、八〇九%の高い失業率が続き、住宅差し押さえが拡がり、ミドルクラスの没落が顕在化した。他方、ミドルクラスを支えてきた労働組合運動は長期にわたり衰退してきた。労働組合組織率は一一・八%、民間部門は六・九%、公共部門は三七%となり、公共部門を除けばほとんど労働組合が存在しない状況となった。

イラク・アフガニスタンの戦争を終わらせ、経済危機を脱したいと願った人々は、二〇〇八年の大統領選挙でオバマを支持した。オバマは就任するや否や、ウォール街の金融機関に多額の公的資金を投入して救済・支援を進めた。そして、中途半端な健康保険制度改革を行なった。これらのオバマの政策に最初に怒り行動を起こした人々は、キリスト教右派や草の根の右翼・保守層である。これらの人々は、企業経営者や富裕層から財政支援を受けながらTea Party

（茶会）運動を進め、二〇一〇年の中間選挙では、共和党を支援した。共和党は連邦議会下院を掌握し、中西部諸州で民主党から州知事や州議会を奪還した。

二〇一一年初め、ウィスコンシン州やオハイオ州などで、新たに就任した茶会派の知事たちは、公共部門の労働組合の団体交渉権を剥奪したり、大幅に規制する州法を提案、労働組合と全面衝突する事態となった。とりわけ、ウィスコンシン州のマディソンでは、二月一四日から労働組合員や学生、市民たちが州議会議事堂を三週間にわたり占拠する闘いを繰り広げた。ベトナム戦争以来という大規模な集会が繰り返しかれた。久方ぶりの労働運動の高揚、そして、公共空間を占拠する運動は、茶会派に反発する全米各地の人々に新たな運動の可能性を感じさせることとなった（高須二〇一一、二〇一二³⁾）。

一%の超富裕層が存在する一方、米国を支えてきたミドルクラスは没落し、貧困層と共に九%を形成していることに人々は気づきはじめた。世界を支配し、暴利をむさぼってきたウォール街の金融機関、それを税金で救済するオバマ政権。しかし、人々はその意志決定に何ら関与できない。その一方で生活は破壊され、貧困や失業が蔓延する。政治的にも経済的にも排除された人々の怒りは爆発寸前まで高まっていた。

(3) ニューヨークの社会運動・労働運動との連関
ニューヨークのローカル・レベルでは、様々

な先進的な実践をへて歴史的に形成されてきた社会運動と労働運動が存在する。二〇一一年の五月から六月には、ブルームバーグ市長による公共サービス予算の大幅削減に反対する運動が拡がっていく。労働組合や社会運動団体が広く共闘して May 12 Coalition (五月一二日連合) が結成され、大規模な抗議デモが組織された。六月下旬には、New Yorkers Against Budget Cuts (予算カットに反対するニューヨーク者たち) が中心になり、Bloomberg Bill (ブルームバーグ市長の予算カット法案) に反対して、市庁舎周辺で一週間の泊まり込みが行なわれた。これは、Bloombergville (ブルームバーグ村) と呼ばれ、そこでは General Assembly が開催されていた。これらの担い手が直接受け皿となつて、九月一七日のウォール街占拠運動が勃発するのである (Brenner 聞き取り: Luce 聞き取り: Lewis and Luce 2012)。

2 ウォール街占拠運動の経過

(1) 占拠運動の準備段階

二〇一一年七月一三日、カナダの雑誌 Adbusters (アドバスターズ^⑥) がウェブサイト上で、「タハリール運動への準備ができています。九月一七日にウォール街を占拠しよう」と呼びかける。

この呼びかけを受けて、予算カット反対運動の担い手たちが集まり、準備がスタートする。そこに、世界各地の蜂起運動に参加した者、とりわけ、スペインのマドリッドの広場占拠運動

(15 M 運動) を経験した人たちがいた (Kroll 2011: クロール二〇一一)。

八月二日、マンハッタン最南部のボーリング・グリーン公園で第一回目の準備会が開催された。そこで、いくつかの左翼党派や運動団体が代表者に発言させるラリー (集会) を進めようとしたのに対し、一〇数人の反権威主義者たちが、General Assembly (全体集会) を主張して、小規模の全体集会を開催した。次第に多くの人たちが全体集会に参加し、党派の人たちも参加せざるをえなくなったという (高祖二〇一二、一六五頁: Graeber 2011: グレーバー二〇一一)。そこでさつそく、占拠運動を進める様々なワーキング・グループが設定され、準備がスタートした。

以後、ウォール街占拠運動は、セクト的な一部左翼党派 (Worker World Party など) と緊張関係を持ちつつ (Brenner 聞き取り: Luce 聞き取り: Stijn 聞き取り)、全体集会とワーキング・グループを基礎とする合意形成型の運動を推進していく。

(2) 占拠運動のスタート

九月一七日、当初占拠を予定していた「チェース・マンハッタン・プラザ」が前夜にニューヨーク市警によって封鎖されてしまったため、場所を変更して、Zuccotti Park (ズコッティ公園、Liberty Plaza と呼ばれる) に一〇〇名ほどの人々が集まった。テントや寝袋を持ち込んだの泊まり込みが始まった。当初静かに始まった占拠運動は、警察の過剰な弾圧・暴

力行為が YouTube などのインターネットで流され、反発を引き起こすことによって、拡大していった。九月二四日には、歩道で平和的に抗議行動をしていた女性たちに警官がペーパー (催涙) スプレーを吹き付けた。その映像が YouTube で配信されて大反響を生んだ。

九月二八日、Transport Workers Union Local 100 (ニューヨークの都市交通労働組合) はウォール街占拠運動の支援を決めた。Professional Staff Congress CUNY (ニューヨーク市立大学専門職組合) や他の労働組合も支援を始めた (Brenner 聞き取り: Luce 聞き取り: Ness 聞き取り: Stijn 聞き取り)。

(3) 占拠運動の展開と全米・全世界への拡大

一〇月一日ブルックリン橋でデモ隊の七〇〇名が逮捕されるという事態が発生。これをマスメディアは全世界に発信した。全米のみならず全世界の人々がウォール街占拠運動の存在を知ることとなった。以後、ズコッティ公園でのテント村は定着し、一〇月一五日の強制排除まで占拠運動は盛り上がりつついく。そして、全米各地へ、全世界へ占拠運動が拡がっていった。

一〇月五日には、ニューヨーク市の主要な労働組合や地域の社会運動団体が賛同して、一人を超え人々、労働組合員、学生、市民たちが参加するデモ行進が行なわれた。

一〇月一四日早朝、ズコッティ公園を所有しているブルックフィールド・オフィス・プロパティーズ社はニューヨーク市と公園を清掃し強制排除しようとする。三〇〇〇人を超える活動

家や組合員たちが自発的に集まり、ニューヨーク市警とにらみ合いになり、強制排除は中止となった（Brenner 聞き取り：Luce 聞き取り・Stirin 聞き取り：Stirin 2011c；シトリン 2011a）。

一〇月一五日は国際連帯行動日で、全米各地、東京を含む世界各地で連帯行動が行なわれた。一〇月一六日にはオバマ大統領が事実上の支持表明を出した。一〇月二五日には、西海岸のオークランドで占拠運動の参加者が警官隊の襲撃を受けて、重傷者が出る。以後、全米各地で占拠運動の参加者と弾圧しようとする警官隊との衝突が各地で起こる。

(4) 強制排除から冬を越えて

一月一五日午前一時頃からブルームバーク市長の指示を受けたニューヨーク市警は、ズコット公園の周辺を閉鎖して、強制排除を開始。公園内のテントや占拠運動参加者の所有物を清掃車に投げ込み、公園を清掃。二〇〇名以上を逮捕して、公園を閉鎖した。当日夕方五時以降は、テントや寝袋を持ちこまない限り公園内への立ち入りは可能となった。さっそく、全体集会が開催された。一月一七日には以前から予定されていた一日行動が実施され、ウォール街周辺をはじめマンハッタン中で様々な抗議行動が取り組まれ、三万五〇〇〇人以上が参加した（Lewis and Luce 2012）。

以後、非常に寒い冬の間は大規模な行動は行なわれなかった。ズコット公園や他の場所の占拠が繰り返し試みられたが成功しなかった。

ワーキング・グループの活動や全体集会は継続された。

(5) 春期攻勢？ 拡散？ 定着？

春になり再び街頭行動が活発化。三月一七日には六カ月目のズコット公園再占拠行動が行なわれ、七三名が逮捕された。五月一日のゼネラル・ストライキを掲げたメーデーは、占拠運動の参加者に加え、メーデーを取り組んできた移民労働者たちや地域の労働組合が参加して、大規模なデモとなった。

ウォール街占拠運動はズコット公園という占拠空間を失ったけれども、コミュニティレベル（各コミュニティでの全体集会の開催）や課題別の活動を広げているように思われる。他方、全体集会やグループ代表会議は、一部の参加者が「ブロック」（絶対反対）を乱発したりして、議論や合意形成がうまくいけなくなり、四月以降は、実質的な機能を停止しているという。今後の展望を現時点で語るのは大変難しいが、占拠運動は、節目節目の大衆行動の動員力を維持しつつ、コミュニティや課題別の取組みに拡散しながら、定着していると言えるかも知れない。この点は、今後のフォローアップ調査で解明していきたい。

3 ウォール街占拠運動―私たちが学ぶべきもの

ウォール街占拠運動の特徴を整理しながら、日本の私たちが学ぶべき点を議論したい。

(1) 広場を占拠し続ける意味

広場＝公共空間の占拠運動は、社会運動を物理的に可視化していく運動である。そこに人々が集い、議論する。誰でも参加し、発言できる General Assembly（全体集会）が開催される。様々なワーキング・グループの会合が開催される。意志決定や合意形成のプロセスが可視化されていく。台所、図書館、メディア、情報、医療などのテントが設置され、占拠を維持し、そこで生活していくうえで必要な活動が進められる。広場を占拠し続けることは、参加者たちがめざす社会や社会的関係をその場に創り出す実践である。それは参加者たちがめざす新しい社会を（予示）することでもある。

ウォール街占拠運動は、その活動を新旧様々なメディアを通じて、全米へ、全世界へ可視化させている。Occupied Wall Street Journalをはじめとする様々な紙メディア（それは同時にウェブサイトにアップされる）、ウェブサイトやブログのみならず、インターネットを通じた動画中継や YouTube、Twitter、Facebook などのソーシャルメディアが積極的に活用されている。

日本において問題を可視化させることで社会運動を成功させた最近の事例は、「年越し派遣村」である。二〇〇八年末から〇九年始に、派遣切りされ、ホームレスとなった人々が厚生労働省前の日比谷公園の派遣村に続々と集まった。役所が閉庁した年末年始にテントを張って五〇〇名余の人々が泊まり込むことによって、政治と社会に問題の所在を明らかにした。さらに、

二〇一一年九月から続く、脱原発を求め、原発再稼働に反対する経済産業省前のテントもまた、原発問題を社会的に可視化し、再稼働阻止の運動の拠点にもなっている。そして、とりわけ脱原発運動では、インターネットメディア、ソーシャルメディアが積極的に活用され、運動を拡げている。これらはウォール街占拠運動と通じる部分である。

(2) 社会運動の変革Ⅱ合意形成型の運動をめざす

ウォール街占拠運動は、準備段階から従来の社会運動スタイル、すなわち、演説者と聴衆という一方通行の関係であるラリー（集会）型の運動スタイルや各運動組織を代表する指導者たちの合意で物事を決めていく実行委員会型の運動スタイルの根本的な変革をめざしている。それは、すでに述べたとおり、ワーキング・グループでの議論を基礎に、誰でも参加できる全体集会での――まさに平場で合意を形成していく――直接民主主義を強く志向している。一人ひとりの自発的な参加と意志を大切にしながら議論をつくして合意を形成する。運動のなかに、指導者やヒエラルキーをつくらない。新しい水平的な社会関係を創り出す。これがシトリンら（Stirin）のHorizontalism（水平主義）である（Stirin2006・Stirin2011a）。

そして、ウォール街占拠運動は、あらかじめ「要求の枠組み」（統一要求）をつくり、そこに人々を集めていく運動ではない（Stirin2011b・シトリン2011a・Stirin聞き取り）。従来の社会運動や労働運動は、統一の要求を掲げて集

まり、政治家へ働きかけ、要求を実現してきた。しかし、占拠運動は、既存の政治的枠組みから距離を置き、「ウォール街を占拠せよ」「私たちは九九%だ」という共通のスローガンの元に集まり、広場の占拠が続いている。経済的に政治的にも非民主的な社会に対して、「もうたくさんだ！」と声を上げ（Stam聞き取り）、自分たちで新しい社会関係、新しい運動スタイルを創り出すことを強く志向している。

この運動スタイルは、当然にして、従来型のスタイルを維持しようとする既存の左翼政治党派や六八世代（六〇年代後半の学生運動世代）から批判を受け、対立する。しかし、占拠運動は直接民主主義を求める人々、運動の経験のない多数の若者たちを引きつけ、彼ら彼女らの大衆的な参加によって、「対立」は乗り越えられた。

さて、日本を振り返れば、ラリー型・実行委員会型の社会運動が主流である。とくに労働組合は動員型・指令型の歴史的経験が根深く染み付いている。しかし、三・一一以降の放射能から子どもたちを守る各地の運動や若者たちの脱原発運動は自発的な参加型の運動スタイルを持つている。そして、本稿執筆の最中に盛り上がっている大飯原発再稼働阻止のデモは自発的な人々の意志の爆発的な表現ではなからうか。その点では、日本の社会運動にも新しい可能性が広がっている。

(3) 多様性と拡がり

世界を支配し、暴力をむさぼってきたウォー

ル街の金融機関、そして、それを税金で救済するオバマ政権。しかし、人々はその意志決定に何ら関与できない。その一方で生活は破壊され、貧困や失業が蔓延する。「ウォール街を占拠せよ」「私たちは九九%だ」というスローガンは、政治的にも経済的にも排除された人々の怒りを爆発させた。

しかし、二〇〇八年以降の金融・経済危機のインパクトは白人ミドルクラスさえも没落と貧困に追い込んだ。その結果、白人がウォール街占拠運動の主要な担い手として登場した。しかし、運動のスローガンと方法は、白人のみならず多様な人々を引きつけた。多様な人種・民族、一〇代からシニアまで多様な世代、性、貧困層から労働者、学生、ミドルクラスまで様々な人々が集まっている。

他方、すでに触れたとおりズコッティ公園はチャイナタウンに近接しているにもかかわらず、中国系をはじめとする東アジア系の参加は少ない。Suchdevは、「マイノリティや移民たちは、ずっと以前から貧困だったが、現在、ミドルクラスの白人たちと自分たちの利害が一致して一緒に運動をしている点では画期的である。しかし、ウォール街占拠運動は白人主導の運動であり、有色人種や移民たちの声を運動に反映するのは難しい。それゆえ、有色人種のワーキング・グループを立ち上げ、そのなかにサブ委員会を置き、そこから他の各ワーキング・グループに人を送り、自分たちの意見を反映させようとしている。」という（Suchdev聞き取り）。このような取組みがあって、有色人種の人々が

ウォール街占拠運動に参加するようになっていく。しかし、依然として、すべてを九九%として単純に包摂しえない溝がある。

参加者の政治性も多様である。無党派が多数と思われるが、指導部を置かず全体集会を基礎とする合意形成型直接民主主義を指向している点では、アナーキストたちが強い影響力を持っている。様々な左翼党派、民主党左派、宗教者労働組合員をはじめ、リバタリアン（完全自由主義者）までも出入りしているという（Luce聞き取り・高祖二〇一二）。

そして、多様な運動、多様な課題を持った人々が合流している。それは自治体予算（公共サービス）カット反対運動にはじまり、コミュニティの諸課題、貧困、医療、教育、住宅、生活、金融、環境保護に加え、LGBTや女性、マイノリティ、移民、労働者の権利や抱える課題など様々である。そして、既存の労働組合から、上からの動員指令に関係なく現場の組合員たちが大挙して合流している。Brennerは、ウォール街占拠運動は様々な社会運動が合流する umbrella（傘、包括するもの）であり、hub（中心地）だと言っていた（Brenner聞き取り）。まさに、多様な社会運動を包摂し、新しい運動や関係を創り出していく場である。

日本と比較するとどうか。筆者はこれほどまでに多様性を包摂した社会運動をほとんど見たことがない。強いて言えば、反貧困ネットワークなどが主催した「反貧困フェスタ」であろうか。そこでは連合や全労連などの既存の労働組合と生活や貧困、女性、外国人などの課題を

取り組んできた様々な社会運動が「同席」して（相互の交流はまだまだ不十分であるけれども）、一緒に一つのイベントを取り組んだ。反貧困ネットワークが umbrella になるかどうかはさておき、深刻さの増す貧困や非正規労働者をめぐる課題は多様な人々をつないでいくキーワードであり続けるだろう。

(4) 徹底した非暴力主義と直接行動

もう一つの重要な特徴は、非暴力・直接行動の徹底である。警察は市民に暴力をふるい逮捕をするが、市民はそれに対して非暴力・直接行動や市民的不服従で抵抗する。警察の暴力に対しては、非暴力の直接行動のほうむしろ有効でさえある（Solnit 2011・ソルニット二〇一二）。ウォール街占拠運動においては、警察の過剰な弾圧に対する反発、一般の人々の反響をバネに運動を拡大し、拡げていったといえる。日本の場合は七〇年代の新左翼運動の負の歴史を十分に総括し切れてないように思う。そして、非暴力でどのように警察権力と対峙するのか、社会運動の担い手の間で十分な議論もトレーニングもできていないのではなからうか。

(5) 労働運動、社会運動、そして政治へのインパクト

労働運動はウォール街占拠運動を積極的に支援してきた。占拠運動の初期に Labor Outreach Working Group（労働支援ワーキング・グループ）が設置され、ウォール街占拠運動と労働運動との関係づくりが進められてきた。

九月末から一〇月初め、TWU Local 100（ニューヨーク都市交通労働組合）・PSC-CUNY（American Federation of Teachers, Local 2234）「ニューヨーク市立大学専門職組合（米国教員組合連合二二三四支部）」・SEIU1199（全米サービス従業員組合一一九九支部）・RWDSU（Retail, Wholesale and Department Store Union：小売卸売百貨店組合）・DC37（District Council 37、AFSCME：ニューヨーク市従業員組合）はウォール街占拠運動への支援を表明した。各組合は、ズコッティ公園近隣の組合会館を公開し、資金、物資、食料などを提供し、医療や人的支援も行なった。一〇月一四日、ニューヨーク市と市警が強制排除しようとする、早朝に三〇〇〇人を超える労働組合員と占拠運動参加者が合流して、阻止行動を行なった。そして、労働組合は一〇月五日、一一月一七日、五月一日の行動には数万人規模の動員をかけて取組みを行なっている。労働組合の支援は、公共部門、改革派系、左派系の労働組合からビジネス・ユニオニズム的な労働組合までもが支援するに至っている。ナショナルセンターのAFL-CIOやCTWも支援表明している。

サザビーズ社の争議「Teamsters Local 814（全米運輸労組八一四支部）」が組織「や大手通信会社のVerizonとCWA（Communication Workers of America：全米通信労組）」協約改定闘争では、占拠運動の参加者たちが抗議集会などに支援に駆けつけている（Brenner聞き取り・Luce聞き取り・Ness聞き取り・Stirn聞き取り・Lewis and Luce 2012）。

ウォール街占拠運動は労働運動にいかなるインパクトを与えているか。すでに述べたように各組合の指導部は支援を決定し、行動へ動員をかけた。同時に重要なことは、現場の組合員に大きなインパクトを与え、自発的に占拠運動に参加する組合員たちが出てきている点であろう(Stirin聞き取り)。

LewisとLuceは、「ウォール街占拠運動は広い意味で労働運動である」という書き出しで始まる論文(Lewis and Luce 2012)で、現代の労働運動は官僚的で直接行動を避け、リスクを回避しようとしている、一〇〇年前に持っていたのに、失ってしまった直接行動や参加型の民主主義(水平主義)を占拠運動から学ぶべきだ、と書いている。占拠運動に参加することは、直接行動や水平主義を体で体験することになる。これがただちに所属する組合の民主化や行動戦術の活性化につながるかどうかを判断することはできないが、ポジティブな影響をもたらすだろう。この点についてはフォローアップ調査のなかで検討していきたい。

社会運動へのインパクトは、すでに「(3)多様性と拡がり」の項で議論したが、大学での占拠運動の拡がりについては触れておきたい。各大学の学生たちが大挙して占拠運動に参加している。それは直接民主主義的な運動方法が運動の経験のない学生たちを強烈に引きつけたからである。そして、自分たちの境遇——公立大学は自治体の財政赤字を理由に学費をどんどん値上げしているが、卒業してもまともな就職先がないまま多額の学資ローンを抱えて、返済できない人たちが増えている——に対する不満や

不安が爆発した。学生たちは占拠運動に参加する一方、設置者や大学当局に対する闘いも始めている(Vazquez聞き取り)。学生たちの占拠運動の体験は、長期にわたって社会運動にポジティブな影響を残していくだろう。

最後に政治へのインパクト。二〇一二年一月には大統領選が行なわれる。二〇一〇年の茶会派の運動は、民主党・オバマ政権に対する草の根の右翼・保守・富裕層・企業経営者からの反発であったが、共和党内の茶会派候補者への選挙支援運動の色彩が濃かった。これに対し、ウォール街占拠運動は、草の根の無党派や左翼の労働者・市民・学生からのオバマ政権に対する抗議や共和党・茶会派への反撃である。彼らの多くは二〇〇八年の大統領選でオバマに投票したかも知れない。しかし、オバマは当選するや否やウォール街に税金を投入して一%に対する支援を進めた。金融・経済・財政危機は人々の生活を破壊した。政治的にも経済的にも排除された人々の怒りは、共和党と民主党という既存の政治制度の枠組みの外から、オバマを含めた既存の政治全体に対する抗議運動として爆発した。一月の大統領選挙、そして、今後の政治にどのような影響を与えていくか予測は難しい。引き続きフォローしていきたい。

日本に目を戻す。二〇〇九年に自公から民主党への政権交代があったが、政治は機能不全を起こし、民主党政権や既存の政党に対する人々の不満は高まっている。衆議院での消費税可決や大飯原発再稼働に対して、人々の怒りは高まった。大阪市長の橋下らの維新の会は、その間隙を縫って、公務員たたきと右翼的新自由主

義的政策を掲げて、人気を博している。劇場型政治が続き、人々は政治や社会に「発言する市民」ではなく、単に「投票行動を行う観客」として存在している。大変に危険な事態だ。唯一の救いは脱原発運動である。六月下旬に入り、毎週金曜日の夜、数万人の人々が官邸前から国会前で大飯原発再稼働阻止を掲げて抗議行動を続けている。これはウォール街占拠運動とも相通じる運動である。政治や社会を変革するために発言し行動する市民が求められるのだと思う。

むすび

まもなくウォール街占拠運動の勃発から一年を迎える。ウェブサイトやYouTubeなどに膨大な情報が発信されている。ウォール街占拠運動は、直接民主主義による合意形成と直接行動によって、社会運動のそのものを変革する運動である。「私たちは九九%」というスローガンと誰でも参加できる運動は、人々の共感を呼んで、爆発的な盛り上がりを見せた。みんな楽しそうに参加し、議論していた。自分たちはどのような社会を作りたいのか、それをまず自分たちの手で実践してみせる。それは、実験でもあるので、失敗もある。閉塞的な政治・経済・社会の状況に声を上げる。行動に移す。人々とながる。その大切さを多くの学生たちや二〇代・三〇代の若者たちが体験した。運動の足跡は必ず残る。

今後、ウォール街占拠運動はどう展開していくのか。政治や社会にいかなる影響を与えていくのか。新たな運動がそれを引き継いでいくのか。

引き続きフォローアップを行ない、日本の私たちが学ぶべきものを考えていきたい。

【ウォール街占拠運動関係ウェブサイト】

<http://www.occupywallst.org/>
<http://www.nyganet/>
<http://www.occupytogether.org/>

【参考文献・資料】

- * 『オキュバリー ガゼット』編集部編 (二〇一一) 『私たちは九九%、だーどキュメント ウォール街を占拠せよ』岩波書店
- * サラ・ヴァン・ゲルダー+『YES! Magazine』編集部編 (二〇一一) 『九九%の反乱：ウォール街占拠運動のとらえ方』バジリコ。
- * デヴィッド・グレーバー、高祖岩三郎訳・構成 (二〇〇九) 『資本主義後の世界のために：新しいアナキズムの視座』以文社。
- * 高祖岩三郎 (二〇一一) 『世界を『脱占領』しよう：ウォール街占拠 新しい社会変革の可能性』『世界』二〇一一年二月号。
- * 高須裕彦 (二〇一一) 『「抵抗」を掲げるアメリカ労働運動：共和党右派・茶会グループからの攻撃に対して』『現代の理論』二七号。
- * 高須裕彦 (二〇一一) 『マディソンとウォール街占拠運動はアメリカ労働運動再生の糸口となるか』『生活経済政策』二〇一一年四月号。
- * Graeber, David (2011), "Enacting the Impossible: On Consensus Decision Making" in *Occupied Wall Street Journal*, 3rd issue, October 22, 2011. <http://occupywallst.org/article/enacting-the-impossible/>

で閲覧できる (二〇一一年六月二十四日アクセス) [邦訳：デヴィッド・グレーバー (二〇一一) 「不可能を可能にする：総意による決定」サラ・ヴァン・ゲルダーほか二〇一一所収]

- * Kauffman, L. A. (2011), "The Theology of Consent" in Astra Tylor et al(ed), *Occupy! Scenes From Occupied America*, Verso, 2011. [邦訳：J・アカマン・ペン (二〇一一) 「合意の神学」『オキュペンバー ガゼット』編集部編 (二〇一一) 所収]
- * Kroll, Andy (2011), "How Occupy Wall Street Really Got Started" in motherjones.com, October 17, 2011. [邦訳：マンディ・クロール (二〇一一) 「ウォール街占拠はそもそもどのようにして始まったのか」サラ・ヴァン・ゲルダーほか二〇一一所収]
- * Lewis, Penny and Luce, Stephanie(2012), "Labor and Occupy Wall Street: An Appraisal of the First Six Months" in *New Labor Forum*, Volume 19 Issue 3, Spring 2012.
- * Stirin, Marina (2006), *Horizontalism: Voices of Popular Power in Argentina*, AK Press.
- * Stirin, Marina (2011a), "Horizontalism: From Argentina to Wall Street" in *NACLA Report on the Americas*, November/December 2011, Volume 044, Issue 6.
- * Stirin, Marina(2011b), "One No, Many Yeses" in Astra Tylor et al(ed), *Occupy! Scenes From Occupied America*, Verso, 2011. [邦訳：マリナ・シトリン (二〇一一) 「一丁の『ノー』、たくさん『イエス』」『オキュペンバーガゼット』編集部編 (二〇一一) 所収]

- * Stirin, Marina(2011c), *OWS-NYC* (Stirinの個人サイトの記事) 以下から閲覧できる。 http://marinastirin.com/?page_id=110 [邦訳：マリナ・シトリン (二〇一一) 「民衆の力の恐ろしさ：ウォール街占拠 最初の一ヶ月」サラ・ヴァン・ゲルダーほか二〇一一所収]
- * Solnit, Rebecca(2011), "Throwing Out The Mother's Tools And Building A Better House" in Astra Tylor et al(ed), *Occupy! Scenes From Occupied America*, Verso, 2011. [邦訳：レベッカ・ソルニット (二〇一一) 「主人们お道具を捨てて、よりよい家をつくる」『オキュバリー ガゼット』編集部編 (二〇一一) 所収]

【聞き取り】

- * Brenner, Mark (レイバース・ディレクター) 二〇一一年一〇月二八日、一一月一五日
 - * Clawson, Dan (ブサチューセッツ大学アマハースト校教授) 二〇一一年一一月七日
 - * Luce, Stephanie (ニューヨーク市立大学准教授) 二〇一一年一〇月二八日、一一月一五日
 - * Ness, Immanuel (ニューヨーク市立大学教授) 二〇一一年一〇月二七日、一一月一四日
 - * Stirin, Marina (ニューヨーク市立大学研究員、弁護士) 二〇一一年一一月一日
 - * Stam, David (メディア活動家、写真ジャーナリスト) 二〇一一年一一月二日
 - * Suchdev, Sonny (音楽家) 二〇一一年一一月四日
 - * Vazquez, Lucas (高校生) 二〇一一年一一月八日
- いずれの聞き取り対象者もウォール街占拠運動に何らかの形で関与している活動家である。

